

2023年トップページまとめ(2023.6.19-2023.12.18)

経過報告

2023年6月19日

2023年5月29～30日つくば国際会議場で開催された日本材料学会第72回学術講演会の一般セッション「建築・土木」で、「**持続可能性の視点からの混合セメントコンクリートの環境調和型設計の高度化**」というタイトルで研究発表をしました。その論文内容のPDFファイルを公開しました。「**主宰著作・論文およびリンク集**」のところにあります。

また、2023年5月30日日本学術会議土木・建築部会主催の**環境工学連合講演会「グリーンリカバリーと環境工学**」に、オンライン参加して、視聴し、いろいろな分野での環境配慮および環境調和型の研究・技術開発の動向に触れ、感慨深いものもありました。

2023年7月8日

○建設コンサルタント誌の原稿「**人と地球に優しい持続可能型住環境を目指してー環境調和型材料（エコマテリアル）、環境調和型材料設計（エコマテリアル・デザイン）、環境調和型生涯設計（エコライフサイクル・デザイン）のすすめー**」のPDFファイルを公開させて頂きました。「**主宰執筆・講演およびリンク集**」のところにあります。

○北九州市立大学の研究事例集の原稿「**先端複合材料・部材・構法の環境調和性・持続可能性評価と環境調和型設計ー持続可能な環境調和型・資源循環型建築・都市・社会を支えるエコマテリアル及びエコデザインの視点からのアプローチー**」のPDFファイルを公開させて頂きました。「**主宰執筆・講演およびリンク集**」のところにあります。

○建築協会誌「**建築と社会**」における原稿「**リサイクルとエコマテリアルの技術開発と評価ー建築材料の視点からー**」のPDFファイルを公開させて頂きました。

「**主宰執筆・講演およびリンク集**」のところにあります。

2023年7月26日

2023年7月6～7日大阪大学理学部南部陽一郎ホールで開催されたマテリアルライフ学会第34回研究発表学術講演会の一般セッション「耐候性・耐熱性」講演番号12で、「ポリビニル系高分子材料の劣化過程の可視化（その7）－半球型シェルにおける高密度ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリスチレンへの適用と劣化性状の比較」というタイトルで、Movie方式で、研究発表を終えることができました。

2023年8月22日

ホームページビルダーズ22の協力を得て、リンクの不具合と404問題の修正を図っています。主宰論説を、主宰論説集のPDFファイルの形で、まとめました。

2023年9月16日

9月12～15日に京都大学で開催された日本建築学会大会（近畿）に参加しました。9月12日は、オンライン開催でした。開会式と材料・施工のパネルディスカッション[JASS10(プレキャストコンクリート工事)]に参加しました。また、材料・施工：セッション（中性化（2））のセッションで、講演番号1193で、「二酸化炭素の多方向拡散過程によるコンクリートの中性化進行過程の可視化（その11）－逆ステップ応答解析－」というタイトルで、無事対面形式での研究発表を終えることができました。また、参加した「中性化（その1，その2）」のセッションで、若い研究者の新しい興味深い研究発表にも触れることが、できました。多少のトラブルもありましたが、極めて有意義であったと思われました。

2023年9月22日

詩仙堂散策記

9月14日、日本建築学会の参加登録を終えた後、午後の研究協議会への参加をパスし、洛北の静かな

散策の場として、「詩仙堂丈山寺」を訪れました。酔芙蓉の花など、庭園内で、春夏秋冬色々な花が咲き、FACEBOOKで、時々映像を流してもらっています。これまでの感謝も兼ねて、体の不具合も残っていて、老妻に付き添われての形でしたが、訪れて、その趣を楽しむことができました。この詩仙堂は、江戸時代、石川丈山が晩年を過ごした山間の別荘だったようですが、この寺は、現在、禅宗のひとつの曹洞宗の末寺となっているようです。酷暑の残るこの時期、観光名所の金閣寺、銀閣寺もいいが、このような閑静な場所を散策するのも一興かと思われました。

2023年9月28日

4年ぶりに、東京大学教養学部昭和40年度入学S1-15クラス同級会(東友会)が、東京都文京区本郷にあるフォレスト本郷で開催され、懐かしい旧友の皆様と、会食と四方山話の会談を楽しむ事ができました。付き添いの老妻には、近くで待機してもらいましたが、会場で久しぶりに御尊顔を拝した同級生と楽しい一時を過ごすことができました。有意義だったと思われました。

2023年10月2日

マテリアルライフ学会の機関誌で発表した無機高分子である水ガラスの硬化と劣化過程の論文「[水ガラス系無機結合材の塗膜の硬化及び劣化機構](#)」のPDFファイルの公開が、うまくいったようです。[リンク集](#)および[主宰著作・論文](#)のところにあります。

2023年10月28日

今年の10月26～27日に開催された2023年日本建築仕上学会大会学術講演講演会(第34回研究発表会)で、10月27日の【性能評価II】のセッションで、「[外断熱材料システムにおける水蒸気移動過程の可視化\(その6\) - 半球多層曲面屋根への適用](#)」というタイトルで、対面方式での研究発表を無事終えることができました。また、【エコマテリアル・リサイクル】や【性能評価III】のセッションで、新しい環境調和型断熱材の開発、塗料等の促進耐候性の評価や、劣化シミュレーションに関する若い研究者らの興味深い研究発表にも触れることもできました。他方、女性ネットワークの会創立10周年記念【未来を造る建物のアイデア提案コンペ】の審査結果報告を、興味深く聞くこともできました。4年ぶりの対面方式

でしたが、極めて有意義であったと思われました。

六義園散策記

10月26日、午前中に日本建築仕上学会への参加登録を済ませた後、午後に、東京都の10大庭園に指定されている六義園を訪れ、その日本式回遊庭園での散策を楽しみました。開設150周年に当たる記念すべき年のようですが、シーズン・オフでもあり、人の出も、かなり少なく、ゆっくりと、静かに、秋の紅葉の季節の趣を楽しめました。春の枝垂れ桜とつつじの開花した情景が有名なようです。もともと、江戸時代の将軍徳川綱吉の側用人であった柳沢吉保（小江戸といわれる川越の城主）が、日本の和歌の趣を基に作り上げた名庭園のようです。その後、岩崎弥太郎の別邸だった時期もあったようですが、現在、文京区にある都営の回遊式庭園として、東京都民および文京区民の憩いの場となっているようです。約55年ぶりの訪れだった。修士1年次、下宿の近くにあつて、日曜日などに散策していたことを思い出すようだ。腰痛も残り、老妻の付添もあったが、久しぶりの長距離の歩きを、満喫できたようだ。

2023年11月22日

日本建築仕上学会の建築仕上げフォーラム「**建築仕上げにおけるSDGsとその未来～ゼネコンにおける仕組み Vol1.2～**」に、オンライン視聴で参加しました。最新動向に触れ、有意義だったと思われました。

2023年11月30日

6年ぶりに、えぶり会(旧建設省建築研究所、旧国土交通省建築研究所、旧国土交通省国土技術政策総合研究所、旧国土交通省独立行政法人建築研究所、旧国土交通省国立研究開発法人建築研究所OB会)が、東京都千代田区神田の秋葉原の電気街のBito Akihabaraの5階のチャノマアキハバエラで開催されま

した。懐かしい上司、同僚、後輩、企画部のスタッフの皆様と、会食と昔を思い出す四方山話と近況についての会談を楽しむ事ができました。付き添いの老妻には、近くで待機してもらいました。久しぶりに、御尊顔を拝する事ができた方々とも会談でき、極めて有意義だったと思われました。

2023年12月1日

セメント協会研究所講演会に、オンライン方式で参加しました。高炉スラグおよび火山岩ガラスの持続可能性からの有効利用法等とその耐久性面からの評価法についての、情報と知見の一端に触れることができました。

2023年12月4日(New)

マテリアルライフ学会の第6回マイクロプラスチック・シンポジウムに、オンライン方式で参加しました。海洋・陸地・大気中で観測され、生態系に深刻な影響を与えるとされるマイクロプラスチックの動向とその有効な対応策の模索について知ることができました。

2023年12月6日(New1)

人工知能 (AI)に関して、機械学習による物性推定の精緻化などの有用性と、知的財産権の侵害、創造活動への悪影響など、賛否両論を考え、機械学習による光酸化反応速度定数の推定の話は、中断し、紫外線等の劣化外力の高精度推定に切り替えることにしたいと思います。

2) 一定の厚みを持つ固体中での熱・水蒸気同時移動解析に必要な、熱変化に対する水蒸気変化率を表す非線形係数等は、短繊維強化セメント系複合材料 (FRC)や繊維系断熱材では、未整備なようで、データが公開されていない。少し暗礁に乗り上げた模様です。

3) 大気中の二酸化炭素濃度の高止まり傾向と削減・吸収効果の橋渡しをどのようにまとめて研究発表するか、思案中です。

4) ポリスチレン等のポリビニル系高分子材料のリサイクル促進方法に、光誘起劣化・崩壊を利用する筋道を考えています。時間分解スペクトル解析データの活用も考えています。

2023年12月18日

○最近、日本語論文の英文翻訳版ばかりでなく、英語の論文の和訳版を出す方式もあるようなので、これまでの英語で発表した国際会議の論文を、日本語翻訳版で、発刊してもらうことも考えています。

○イマニュエル・カントが著したという「永遠平和のために」という論述の内容を Wikipedia で調べて、考えています。